

# 倒れている方の命は 皆さんの救命処置で決まります



済生会西条病院  
副院長 石井 博

クビクシびれたように動き、心室頻拍あるいは心室細動という状態になります。そのまま放置しておくと、やがて心臓は全く動かなくなり、脳に酸素がいかなくなり死んでしまいます。

倒れている方を見かけたときにはどうしますか？

すぐに119番に連絡して救急車を呼ぶことは大切です。でも残念ながら救急車を呼ぶだけでは倒れている方を助けることができません。それでは、どのようにして助けることができるのでしょうか？

今回は、人の命を救うための救命蘇生法（BLS＝Basic Life Support）についてお話しをいたします。

心臓は365日24時間いつもリズムを刻んで一所懸命動いています。この心臓はいろいろな原因で急に正確なリズムを刻むことをやめる場合があります。このとき心臓はピ

クビクシびれたように動き、心室頻拍あるいは心室細動という状態になります。そのまま放置しておくと、やがて心臓は全く動かなくなり、脳に酸素がいかなくなり死んでしまいます。

心臓が1分止まってしまうと生きることができると確率（生存率）が10%程度づつ少なくなり、特別な場合を除いて、10分を過ぎると死んでしまいます。しかし、心臓がピクピクしている間に心臓に特別な刺激を与えると、正確なリズムに戻る場合があります。

この特別な刺激ができる機械をAED（自動体外式除細動器）と呼びます。簡単に言うと心臓に電気ショックを与える機械です。この機械は少し教えてもらえれば、誰でも使うことができます。

最近では、西条市においてもいろいろな場所に設置されています。でもAEDを使えば絶対助かるのでしょうか？

絶望ながらAEDは魔法の機

械ではありません。

心臓マッサージと人工呼吸をしなければ、AEDを使っても心臓はリズムを刻みません。これらの助ける方法をBLSといい、誰でも覚えることができる方法であり、私たち医師もBLSを救命法として使用しています。

それではこのBLSはどこで覚えられるのでしょうか？

毎月第3日曜日9時から12時まで西条消防署で講習会をしています。中学生でもできる方法であり、決して難しくありません。

倒れている人の命を救うことは、残念ながら私たち医師の力だけではできません。

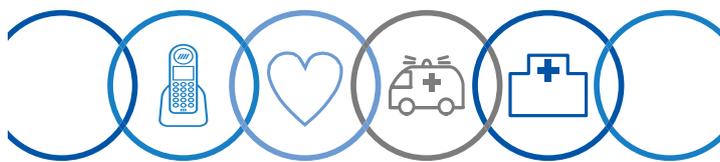


▲市庁舎本館ロビーに設置しているAED（自動体外式除細動機）。

皆さんのBLS、救急救命士の救命処置、そして私たち医師の救命治療の「救命の連鎖」により命を救うことができます。

悲しいことが起こる前に、一歩踏み出してBLSを覚えて、私たちと一緒に大切な命を助けませんか？

※11月の「市民救命士養成講習会」の日程は、17ページに掲載しています。



## 「救命の連鎖」 (Chain of Survival)



早い通報 : おちついて、はっきりと119番に通報する。



早い応急手当 : 救急車の到着前に心肺蘇生法などの応急手当を行う。



早い救急処置 : 救急救命士等の行う除細動などの高度な応急処置。



早い医療処置 : 医療機関における医療処置。



▲医療関係者等を対象に西消防署で行われたAED講習会